

日米韓3カ国シンポジウム参加報告

進藤裕之

平成17年6月9日、韓国国防部軍史編纂研究所主催の日米韓3カ国シンポジウムが韓国ソウル市の戦争記念館において開催された。本シンポジウムは「朝鮮戦争と北東アジアの軍事関係の変遷」を共通テーマとし、筆者も含め、日本、米国、韓国、中国から合計7名の研究者が招聘され、それぞれが発表した（会議の名称は「日米韓3カ国シンポジウム」であるが、中国研究者の参加が間に決まり、実際には4カ国会議となった）。

本シンポジウムは、「日米韓の軍事関係と中国」、「朝鮮戦争とアメリカの対応」、「朝鮮戦争と日本」の順で3つのセッションに分けて、1000～1800の間実施された。なお、発表および討議は全て英語または韓国語で行われた。

朝鮮戦争勃発の55周年に当たる今年、軍史編纂研究所は近隣諸国が朝鮮戦争をどのように受け止め、軍事的に対応したのかを再確認するとともに、朝鮮戦争が近隣諸国の安全保障政策に与えた影響に焦点を当て、朝鮮戦争の再検討に取り組んでいる。その取り組みの一環として軍史編纂研究所は本会議を開催したのである。また、このような観点からの朝鮮戦争の再検討は同時に本会議の目的でもある。

会議のプログラムは、以下の通りである。

1 基調講演：

軍史編纂研究所長 アン・ビュンハン

韓国国防省次官

軍史編纂研究所顧問委員長 ペク・スンユブ 退役大将

2 セッション

(1) 第一セッション「日米韓の軍事関係と中国」

「アメリカ海軍と極東の危機、1945～1953年」

アメリカ海軍歴史センター エドワード・マロルダ博士

「日米韓の安全保障関係と朝鮮戦争」

神田外国語大学助教授 阪田恭代女史

「中国の朝鮮戦争の認識と、同戦争への対応」

北京大学国際関係学院教授 ザン・ジャオミン博士

(2) 第二セッション「朝鮮戦争とアメリカの対応」

「アメリカ陸軍と安全保障—冷戦の出現、1945～1953年」

アメリカ陸軍軍事史センター リチャード・デービス博士

「朝鮮戦争におけるアメリカ陸軍の配備の傾向と特徴」

韓国軍史編纂研究所主任研究官 ナム・ジェオンオク氏

(3) 第三セッション「朝鮮戦争と日本」

「朝鮮戦争期における在日米軍の軍事作戦に関する日本政府の対策」

韓国国民大学校教授 ナム・キジョン博士

「朝鮮戦争期における日本の防衛制度の発展」

防衛研究所戦史部主任研究官 進藤裕之

前述のように、本会議を通じて、日米韓中の朝鮮戦争観や、同戦争への軍事的対応が分析された。中でも、第二セッションで行われた韓国のナム主任研究官の発表は、朝鮮戦争への米軍の投入に関する興味深いプレゼンテーションであった。それは韓国側の朝鮮戦争認識として、マッカーサーの功績が高く評価された一方で、戦争初期に投入された米軍の訓練不足が米軍側の多大の犠牲の原因となったとする発表内容であった。

それぞれのセッションの後半には、韓国人研究者がコメンテーターとなって、発表の内容および分析方法についての意見や疑問点を述べ、発表者との間で活発な議論が展開された。

約8時間にわたり実施された本シンポジウムを通じ、国際的な視点から見た朝鮮戦争の理解を深め、防衛研究所が実施している朝鮮戦争研究の進展にも寄与できたものと思われる。

(防衛研究所戦史部主任研究官)